

市電がなつかしい人、市電走ってたん？という若い人も全国に先駆けて走った市電（N電 - 北野線）の跡を歩いてみましょう。同時に京の歴史の一端が見えてきますよ。

**メモ**：軌道が狭い＝**narrow** が名前の由来です。合図の音からチンチン電車の名で親しまれました。京都駅から北野天神まで **6.3km** を走りました昭和 **36** 年になりましたが、それまで何度か車体を改良しながらも走り続けました。

では出発

京都駅から、西洞院通を経て上京区に入る堀川丸太町あたりから歩き始めましょう。

軌道は堀川通、堀川の東側になります。

堀川第二橋付近に伊藤仁斎右義堂跡があります。江戸時代前期の儒学者です。人間性を重んじた思想に共鳴して多くの門弟がここに集まりました。

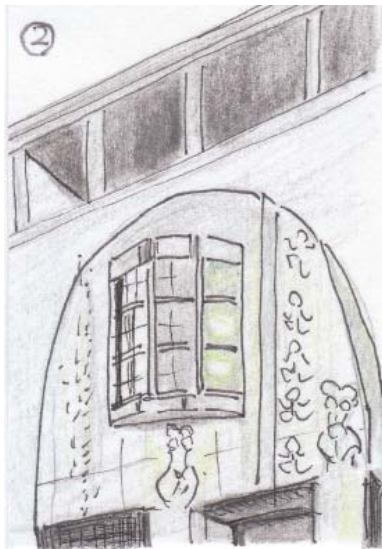
堀川通の向こう側に商店街が見えますね。店の上が三階建ての住宅になっています。戦時中防災のために堀川通が拡張され、伝統ある商店街が一度立ち退きを余儀なくされましたが、戦後、店舗つき住宅として復活しました。

今は当たり前の“上は住宅、下はお店” 当時は画期的な建て方で全国から見学者が来たんですよ！昔ながらの商店街に立ち寄ってもよいでしょう。



①堀川第一橋 ここで電車は堀川を渡り中立売通へと進みます。

下に降りてみましょう。北野線の鉄橋橋台が一部残っています。電車が渡る姿が目につかぶスポットです。

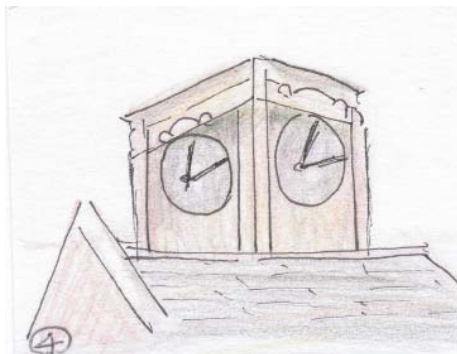
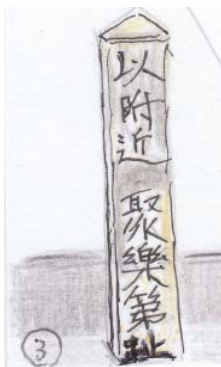


**メモ**：終戦直後、北野から京都駅に向かう電車が脱線、転落し犠牲者が出る大事故がありました。上七軒から帰る米兵もその中に居たそうです。電車はカーブを曲がりきれなかったようです。北野から京都駅方面は高低差があるので、スピードも出やすかったと聞きます。

ちょっと線路からはずれて、中立売通を東に行くと②旧西陣電話局があります。大正時代の建物で国の重要文化財です。モダンな建物、裸婦のレリーフに当時の人はびっくりされたかもしれません。

中立売通に入ってしばらく歩くと、正親小学校前に③聚楽第址の石標があり、このあたりは秀吉の聚楽第の一部とわかります。正親小学校の名の由来は、当時の正親町天皇から来ているらしいです。

長い歴史を持つ上京区（京都）では各時代の史跡が混在していて電車をたどっていても桃山時代がでて来たり—そこが京都の一番たのしいところ。

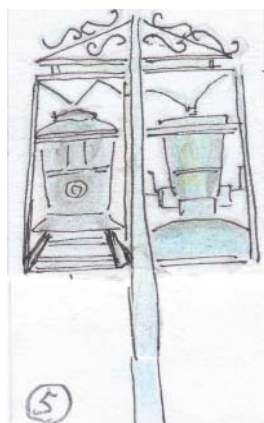


④千本中立売 市電とN電が交差したところがかつては銀ブラならぬ“千ブラ”と言われたほどにぎやかだったところ。

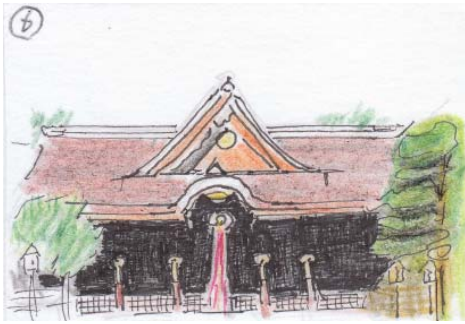
西陣の職人さんが休日に歩き、たくさんの映画館、西陣京極一。角の飲食店の上に残る時計台は当時の名残りのようです。

電車は北野商店街に入っていきます。

両側のお店ギリギリに電車が通り抜けていくのが今でも想像できるようななつかしい感の商店街です。地面に古いN電のレリーフがはまっていますよ。



商店を抜けると⑤N電のモニュメントがあります。子供文化会館はかつてのN電倉庫があったところ。七本松通から見ると大変奥行があるので、なるほど車庫だったのかと納得します。



終電の⑥北野天満宮に向かいます。

(はじめは下の森が終点でしたが北野天満宮の大萬燈祭に合わせて延長され、後、市電今出川線との交差をさけ、又後退するという経過をたどります。)

天神さんの日などさぞN電が活躍したことでしょう。



・京都に電車が再び走ってほしい、堀川もきれいになったことだし・・・と思いませんか？北野の天神さんにお参りして帰りましょう。

**メモ**：京都に電車が走り始めた明治時代。

電車の前を足で走って“でんしゃが来ませ！”と触れ走る“前走り”という仕事があったそうです。

その前走り人が電車にひかれることもあって、親が子供をしかる時“前走りにするぞ”と言ったとか。

(前走りは子供がすることが多かったのです。)

今では考えられないことですね。

